|  |
| --- |
| 受験番号（事務局記入欄） |
|  |

**要約書**

（精神鑑定書　更新審査用[[1]](#footnote-1)）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 受験者氏名 |  | | | |
| 提出年月日 | 2024年　月　日 | | | |
| 事例番号 |  | | | |
| 被鑑定人仮称[[2]](#footnote-2) |  | | | |
| 性別 |  | | | |
| 鑑定時満年齢 |  | 歳 | | |
| 鑑定種別[[3]](#footnote-3) [[4]](#footnote-4) |  | | | |
| 事件１[[5]](#footnote-5) 罪種 |  | | 事件年月日 | 年　月　日　時　分（頃） |
| 事件２ 罪種 |  | | 事件年月日 | 年　月　日　時　分（頃） |
|  |  | |  |  |
| 事件[[6]](#footnote-6) |  | | | |
| 鑑定受嘱日 | 年　月　日 | | | |
| 鑑定書提出日[[7]](#footnote-7) | 年　月　日 | | | |
| 鑑定入院 |  | | | |

|  |  |
| --- | --- |
| 鑑定事項[[8]](#footnote-8) | |
| 1. |  |
| 2. |  |
| 3. |  |

|  |  |
| --- | --- |
| 鑑定主文[[9]](#footnote-9) | |
| 1. |  |
| 2. |  |
| 3. |  |

|  |
| --- |
| A.　事件前後の精神状態の要約（600文字以内[[10]](#footnote-10)） |
| （ 字） |

|  |
| --- |
| B.　特記すべき検査項目・面接事項・家族等との面接の実施状況（200文字以内[[11]](#footnote-11)） |
| （ 字） |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| C.　精神医学的診断[[12]](#footnote-12)： | | | | | |
| 1 |  | （コード： |  | 診断基準： | ） |
| 2 |  | （コード： |  | 診断基準： | ） |
| 3 |  | （コード： |  | 診断基準： | ） |

|  |
| --- |
| D.　精神医学的診断の根拠（200文字以内[[13]](#footnote-13)） |
| （ 字） |

|  |
| --- |
| E.　事件と精神障害の関係についての説明の要約（600文字以内[[14]](#footnote-14)） |
| （ 字） |

|  |
| --- |
| F. 鑑定の論点についての要約（200文字以内[[15]](#footnote-15)） |
| （ 字） |

|  |
| --- |
| G. その他に意見を求められている場合（たとえば弁識能力／制御能力の有無・程度、医療観察法の適用など）にはその説明の要約（400文字以内[[16]](#footnote-16)） |
| （ 字） |

1. この書式は日本司法精神医学会の「学会認定精神鑑定医」の認定審査を円滑にすすめるために作成されたものであり、審査にあたって重要な点をまとめるためのものである。精神鑑定の実務等に利用することを目的としたものではない。 [↑](#footnote-ref-1)
2. 被鑑定人本人の仮称をAとする。 [↑](#footnote-ref-2)
3. 起訴前本鑑定を行ったものについて、後日あらためて公判で証言することになった場合でも、ここでは起訴前本鑑定に分類する。 [↑](#footnote-ref-3)
4. 提出できる鑑定書の種類に注意すること。「訴訟能力鑑定書」「意見書」「私的鑑定」等は含まない。 [↑](#footnote-ref-4)
5. 複数の事件が対象となっている場合、時系列順に事件１、２･･･と数字をつけて追加する。その場合、年号のおきかえの「X年」は最初の事件である「事件１」の年とする。 [↑](#footnote-ref-5)
6. 事件の概要を示す。被疑事実、公訴事実などから引用してもよい。 [↑](#footnote-ref-6)
7. 鑑定書提出日が認定期間中（2020年4月1日から受験申請申込日）のものに限るので注意すること。実際に鑑定書を提出した日付を記載する。

   ※更新申請者においては認定期間中のものを有効とする。 [↑](#footnote-ref-7)
8. 依頼の通りに記し、適宜、数字は追加する。 [↑](#footnote-ref-8)
9. 実際の鑑定書に記したとおりに書く。適宜、項目番号は追加する。 [↑](#footnote-ref-9)
10. 上限の文字数を念頭に、簡潔に要点を記す。無理に多く記す必要はない。文末に文字数を（　）で記入する。半角も１文字を１字と数える。 [↑](#footnote-ref-10)
11. 上限の文字数を念頭に、簡潔に要点を記す。無理に多く記す必要はない。文末に文字数を（　）で記入する。半角も１文字を１字と数える。家族等との面接を実施していない場合には、その理由を記載する。 [↑](#footnote-ref-11)
12. 使用した診断基準も記す（従来診断も可とするが、その場合にもできるだけ操作的診断基準による診断も併記する）。２つ以上の診断がある場合には主たるものから列挙する。 [↑](#footnote-ref-12)
13. 上限の文字数を念頭に、簡潔に要点を記す。無理に多く記す必要はない。文末に文字数を（　）で記入する。半角も１文字を１字と数える。 [↑](#footnote-ref-13)
14. 上限の文字数を念頭に、簡潔に要点を記す。無理に多く記す必要はない。文末に文字数を（　）で記入する。半角も１文字を１字と数える。 [↑](#footnote-ref-14)
15. 上限の文字数を念頭に、簡潔に要点を記す。無理に多く記す必要はない。文末に文字数を（　）で記入する。半角も１文字を１字と数える。 [↑](#footnote-ref-15)
16. 上限の文字数を念頭に、簡潔に要点を記す。無理に多く記す必要はない。文末に文字数を（　）で記入する。半角も１文字を１字と数える。 [↑](#footnote-ref-16)